

平成26年度第1回野菜需給・価格情報委員会の意見概要

1 日時
平成26年7月11日（金）13:30～15:30

2 場所
独立行政法人農畜産業振興機構 南館1階会議室

3 概要

「平成26年産春野菜の需給・価格の実績」（資料1）の説明の後、夏秋野菜の需給・価格の見通しについて、7月4日開催の消費分科会で出された意見等を踏まえ意見交換。その概要を藤島座長が取りまとめ、各委員に了承を得た上で、7月18日開催の平成26年度第1回野菜需給協議会に報告することとなった。

夏秋野菜の需給・価格の見通しに関する各委員からの意見は以下のとおり。

(1) 夏秋キャベツ（7～10月）

① 供給見通し

- 作付面積は、前年並みの見込み。長野は微増。
- 生育状況は、群馬は順調に推移、長野は干ばつ・低温の影響でやや小玉傾向であったが6月の降雨で回復傾向、北海道は6月の長雨の影響で一部の地区で定植が遅れ、また全体的に生育がやや遅れている。
- 出荷量は、期間を通じて安定した出荷が見込まれ、前年をわずかに上回る見込み。

② 需要・価格見通し

- 価格は、前年、群馬等が生育の停滞や降雨の影響で入荷量が少なく高めで推移したのに対し、本年は順調な出荷が見込まれるため、期間を通じて前年を下回る見込み。
- 加工・業務用は、常に一定の原料確保が必要となるため、相場が高い時でも市場から調達するが、市場価格が更に一定以上高くなった場合は、中国からの輸入量が増加することが見られる。

(2) 夏だいこん（7～9月）

① 供給見通し

- 作付面積は、前年並みの見込み。青森は微増。
- 生育状況は、北海道は干ばつの影響で一部、生育遅れが見られたが6月の降雨で回復傾向、青森は春まきは順調に推移、初夏まきの播種時期にややバラつきが見られる、岐阜は順調に推移している。
- 出荷量は、期間を通じて安定した出荷が見込まれ、少なかった前年をかなり上回る見込み。6月の降雨等の影響で8月に一時、出荷の谷間が出来る可能性がある。

② 需要・価格見通し

- 価格は、前年は天候の影響から入荷量が少なめとなり、高めで推移したが、本年は順調な出荷が見込まれるため、期間を通じて前年を下回る見込み。
- 加工・業務用は、冬場より需要は減少するものの、加工用のニーズは一定量あり、今後も継続することが見込まれる。

(3) たまねぎ（7～10月）

① 供給見通し

- 作付面積は、前年並みの見込み。佐賀は作付けが減少。
- 生育状況は、北海道は生育の停滞等があったものの回復し、7月中旬まではおおむね順調に推移、兵庫は玉肥大が順調で平成23年並みの豊作の見込み。
- 出荷量は、府県産全体では昨年並みの見込み。佐賀は前進出荷となっており、7月以降はやや少なめの見込み。出荷シェアの高い北海道は、不作であった前年を大幅に上回る見込み。

② 需要・価格見通し

- 価格は、順調な出荷が見込まれることから、7月は府県産が豊作で入荷量が多く安かった前年並み、8月以降は、北海道産が小玉傾向で入荷量が減少し高めで推移した前年を下回る見込み。
- 加工・業務用は、仕入れ単価の抑制を求められる中で、剥きたまねぎは中国産に一定の需要があり、国内価格が下がっても国内産へのシフトは限定的と見られる。

(4) 秋にんじん（8～10月）

① 供給見通し

- 作付面積は、前年をやや上回る見込み。
- 生育状況は、北海道は干ばつの影響が心配されたが、おおむね順調に推移、青森は春まきはおおむね順調、夏まきは6月の降雨の影響で一部の地区で播種が遅れたことから出荷のピークが遅れる見込み。
- 出荷量は、期間を通じては前年をやや上回る見込み。なお、9月下旬以降に一時、出荷の谷間が出来る可能性があるものの、ほぼ前年並みの見込み。

② 需要・価格見通し

- 価格は、順調な出荷となり、8月は産地の切り替わり時期となり入荷量が少なく高かった前年を下回り、9月以降は入荷量が順調となり前年並みとなった前年並みの見込み。
- 加工・業務用は、一部では中国産から国内産へのシフトがあるものの、歩留まり等の関係もあり中国からの一定量の輸入は継続する。

(5) 夏はくさい（7～9月）

① 供給見通し

- 作付面積は、前年をやや上回る見込み。長野は秋作の作付けが微増。
- 生育状況は、長野は大玉傾向、北海道はおおむね順調に推移、群馬は順調に推移しているが、6月下旬の降雹により一部、品質の低下が見られる。
- 出荷量は、期間を通じては前年をわずかに上回る見込み。長野の秋作の作付けが増加していることから9月の出荷量が多くなる見込み。

② 需要・価格見通し

- 価格は、前年は加工・業務用原料が市場から調達されたことにより高い水準で推移したが、本年は順調な出荷が見込まれることから、期間を通じて前年を下回る見込み。
- 加工・業務用は、この時期は漬物や中華系の外食が需要の中心。
- また、本年は前年が市場からの原料調達に苦労したことから契約取引の割合が高くなっている。

(6) 夏秋レタス（6～10月）

① 供給見通し

- 作付面積は、前年並みの見込み。
- 生育状況は、長野は定植時の干ばつ、6月の低温・降雨の影響を受けていることから、今後の天候によって変動する可能性がある。群馬は順調となっているものの、長雨の影響により品質低下が一部で見られる、茨城は8月上旬に播種が開始される見込み。
- 出荷量は、期間を通じては前年並みの見込み。

② 需要・価格見通し

- 価格は、順調な出荷が見込まれることから、7月は少雨の影響で入荷量が安定せず高かった前年を下回り、8月は生育が回復し入荷量が多く安かった前年を上回り、9月以降は順調な入荷量があった前年並みの見込み。
- 加工・業務用は、夏休みに入る7月下旬以降、ファミリーレストラン等の需要が増加することもあり、安定供給の観点から輸入による一定量の対応を予定しているところが見られる。